

# 焼岳の火山活動解説資料（平成 23 年 3 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺では地震活動が活発な状況となっていますが、その後、地震活動は低下してきています。

火山性微動の発生等、直接噴火活動に関連するような変化は認められておらず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 23 年 3 月 31 日に噴火警戒レベルの導入に伴い噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。予報警報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

### ・噴気など表面現象の状況

山頂部や岩坪谷には従来から噴気孔がありますが、噴気の異常は確認されていません。

### ・地震活動（図 2、図 3※）

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、同日 14 時 57 分のマグニチュード<sup>1)</sup> 4.7 の地震をはじめ、山頂直下～北西麓の浅い所での地震活動が活発化し、有感地震も多発しましたが、その後地震活動は次第に低下しました。21 日 13 時 15 分のマグニチュード 4.8 の地震以降、再び地震活動が活発化しましたが、その後地震活動は再び低下しつつあります。

火山性微動や低周波地震は観測されませんでした。

1) マグニチュードは地震の規模を示します。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがあります。

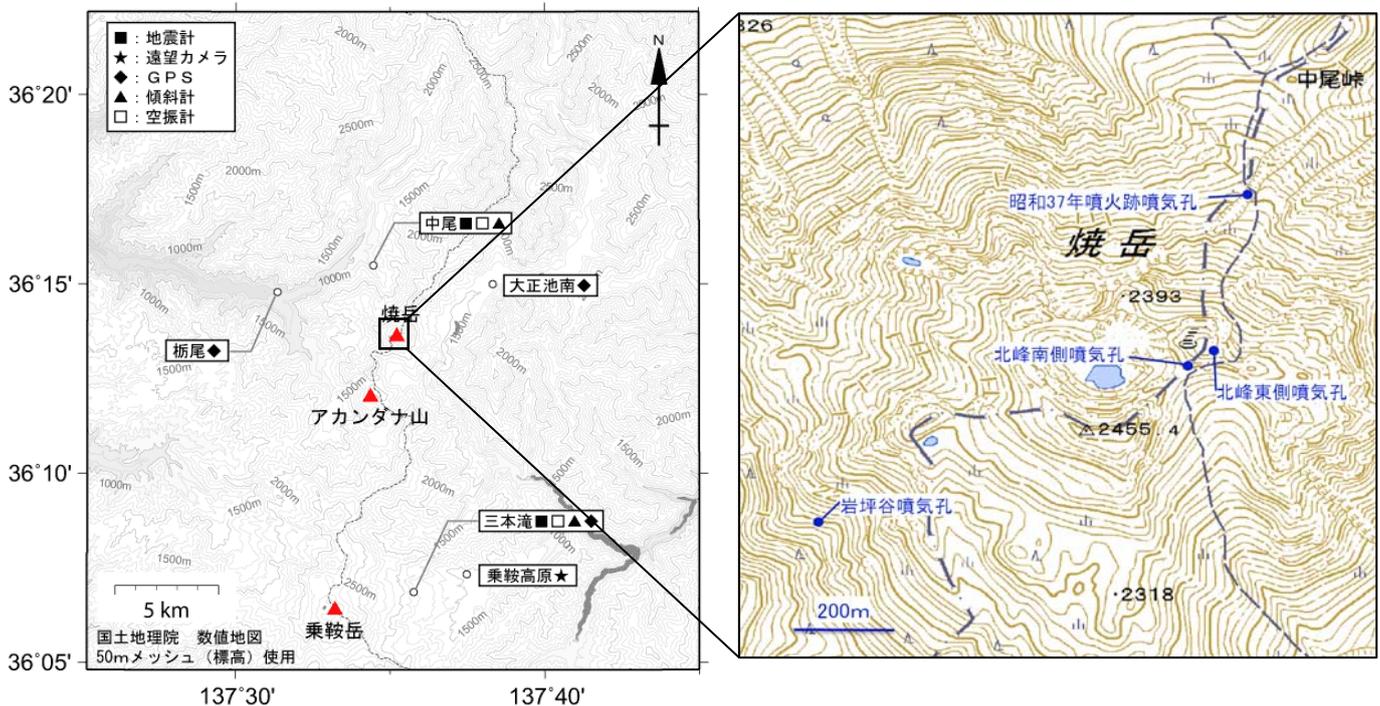


図 1 焼岳 気象庁の観測点配置及び噴気孔の位置

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 4 月分）は平成 23 年 5 月 10 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

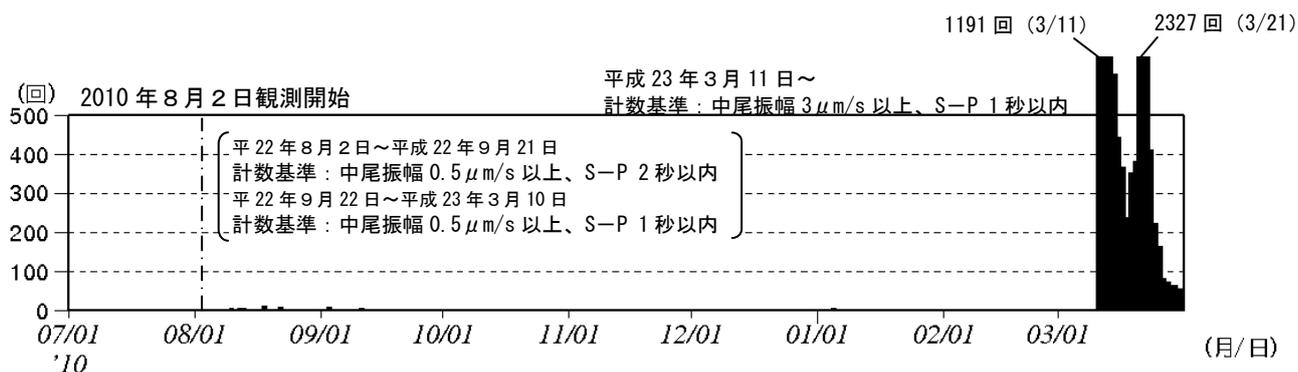


図 2 焼岳周辺の地震回数

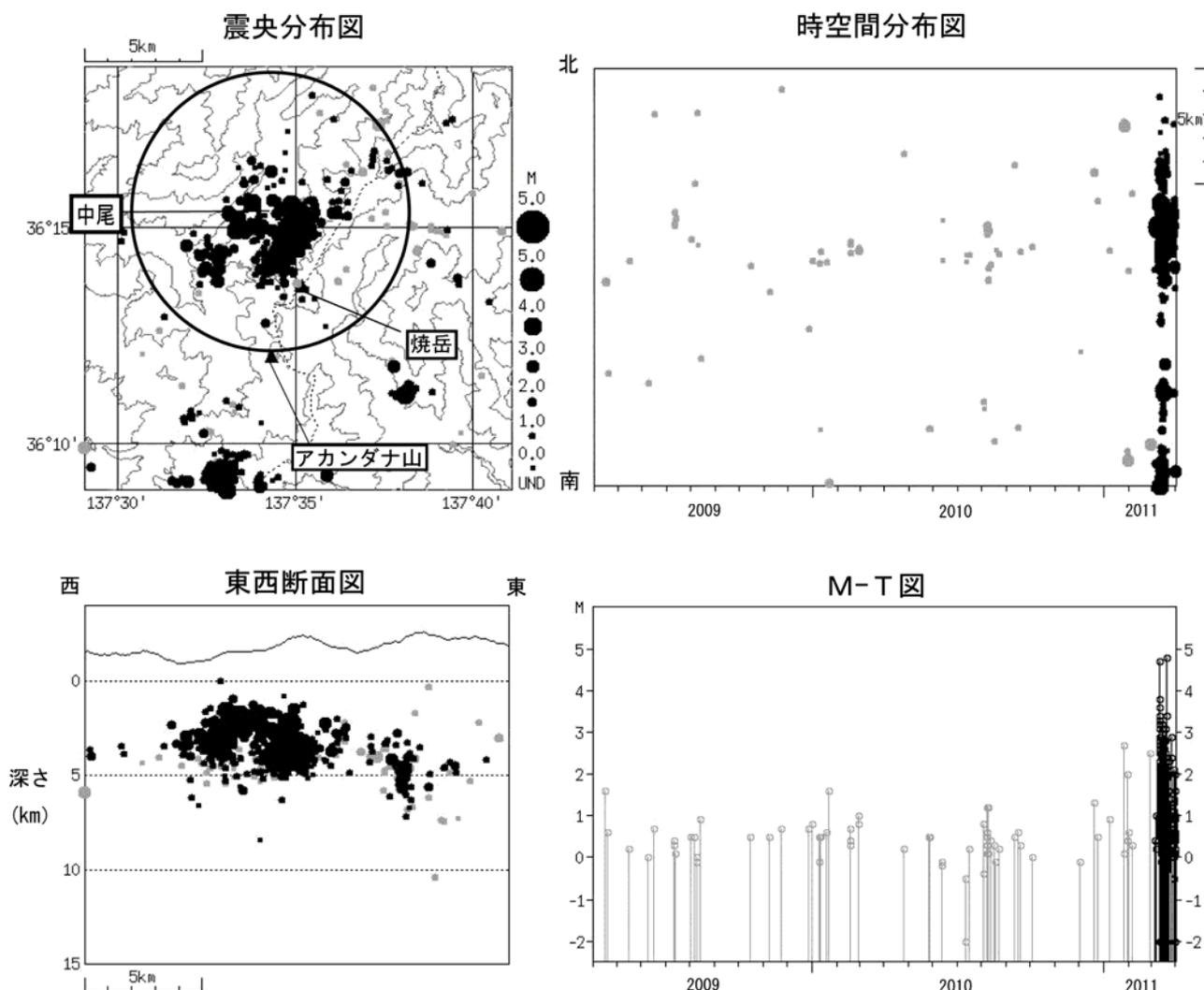


図 3※ 焼岳 広域ネットによる山体・周辺の地震活動(2009 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

● : 2009 年 4 月 1 日～2011 年 2 月 28 日

● : 2011 年 3 月 1 日～3 月 31 日

震央分布図中の円は図 2 の計数対象地震 (中尾で S-P 時間 1 秒以内) のおよその範囲を示します。

M (マグニチュード) は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。